

UC 仮想インストール：シリアルポートにインストールログをダンプする

内容

[概要](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、仮想ユニファイド コミュニケーション (UC) のインストール時に、シリアルポートにインストールログをダンプするプロセスについて説明します。

問題

仮想UCインストールでインストールログをダンプするには、仮想マシン(VM)上の仮想シリアルポートを使用する必要があります。デフォルトでは、シリアルポートは、シスコが提供する仮想サーバテンプレート (OVAファイル) から導入するときに存在しません。そのため、インストールの問題が初めて発生し、ログをダンプする必要がある場合は、シリアルポートが使用できないことがあります。仮想マシンにシリアルポートを追加し、ログをダンプするには、次の手順を実行します。

解決方法

次の手順に従って、インストールログをVMのシリアルポートにダンプします。

1. VMの電源がオフになったら、設定を編集し、シリアルポートをVMに追加します。
注：VMの実行中はポートを追加できません。
2. シリアルポートをファイルに接続する必要があります。このファイルはログのダンプに実際には使用されていないため、一時ファイルやジャンクファイルを添付するだけです。
3. VMの電源をオンにして、インストールを開始します。注：起動時に、Linuxはシリアルポートに接続した一時ファイルにいくつかのガベージキャラクタ (エスケープシーケンス文字) をダンプします。
4. 実際にログファイルをダンプする準備が整ったら、マシンの実行中にVMの設定を編集するときに、新しい空のファイルをシリアルポートに添付します。シリアルポートに接続されているファイルを変更するために、VMの電源を切る必要はありません。
5. ファイルを保存した後、7-Zipで開きます。
6. VMのインストールが正常に完了したら、VMの電源をオフにし、設定を編集して、シリアル

ポートをVMから削除します。

注：シリアルポートをアクティブ（または他の不要な仮想ハードウェア）のままにすると、VMのパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。Unified CM VMでは、インストールログをダンプする以外にシリアルポートの使用は行われなため、新規インストールを行わない限り、シリアルポートは不要です。

関連情報

- [仮想マシンのシリアルポートへのインストールログのダンプ](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)